

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

## <11月は岩手県月間でした>

### 岩手県で最大の被害を受けた陸前高田へ中学校と高校の吹奏楽指導に行きました

11月15日～17日までは陸前高田市、29日から12月1日までは久慈市、洋野町に岩手県内を続けて訪問しました。陸前高田市はこの震災で死者1556人、行方不明者218人、市の人口の7%以上が失われました。参加メンバーはフルート/鈴木章浩(賛助)、クラリネット/大庭めぐみ(賛助)、トランペット/星野究、森林寛(賛助)、ホルン/伊藤恒男、トロンボーン/伊波睦、チューバ/山崎勇太(賛助)、打楽器/遠藤功のみなさんです。

15日初日に行った「朝日のあたる家」はNPOが運営する施設で、木造の天井の高い気持ちのいいスペースでした。「はまってけらいん、かだってけらいん」(入っておいで、語りあおう)と地域の人たちに呼びかけています。近所には大きな仮設住宅があり、コンサートの前には健康体操教室をやってました。午後4時から金管五重奏のコンサート。約50人のみなさんが金管楽器の楽器紹介や「八木節」「すいすいすっころばし」などの日本の曲を楽しみました。アンコールの「花は咲く」に拍手喝采でした。職員のみなさんも参加者の反応にびっくりしていました。



### 「怒りの3年目」・・・子どもたちの心のケアが必要な時



教室から見る校庭には、仮設住宅がひしめく

翌16日は高田第一中学と高田東中学の吹奏楽部合同の指導を行いました。教室から見る景色はいきなり仮設住宅。運動場にびっしりと広がっています。震災後はスポーツの部活は2年間できなかったそうです。

今の中学生は震災時小学校4年から6年生で、下校した後に津波に襲われたといいます。目の前で「水」を見た経験を持ち、家族を失った子どもも多く、8割の生徒が仮設住宅から通っています。生徒たちは何らかのPTSDの兆候を抱えていて、普段は明るいけど、ちょっとしたきっかけで過呼吸症候群で倒れたりする子どももいるとのこと。先生は「怒りの3年目」という表現をしていました。今が一番心のケアが必要な時だとも。

朝、対面式でいきなり生徒たちが「ふるさと」の合唱を披露してくれました。きれいなハーモニーがメンバーの胸に響きました。吹奏楽部の部員は2校で34人。午前中は各楽器の指導、午後からは12月に行われるアンサンブルコンテストにむけて、合奏の指導を行いました。

最後に金管五重奏の演奏のプレゼント。「アンサンブルには指揮者がいないよ。誰がどこで指示を出してリードしていくか、みんなで相談して。」という指導を受けたばかりの生徒たちは、5人の息の合った演奏に、目を丸くして聞き入っていました。



17日は、津波で校舎を流され大船渡に移転した高田高校の吹奏楽のクリニック、午後はコンテストに向けてアンサンブル指導です。大船渡にある廃校になった農業高校に丸ごと移転していました。部員数33名。震災後、この吹奏楽部はいち早く人々を励ますために町の色々なところで演奏を再開しました。午後のアンサンブル指導では1グループにメンバー2人。贅沢な時間が流れました。海からは離れた山に囲まれた広々とした学校でした。

東京にある教材の出版会社が、震災後生徒たちの学習指導のボランティアを行ってきたのが、今回の訪問につながりました。街は瓦礫が撤去され、視野に入るだけでも30台以上の大型の重機が動いていました。山が一つ分なくなる勢いで土を削り取り、港のかさ上げのために埋め立て、以前に何があったのかさっぱりわからない状態でした。「奇跡の一本松」はさすがに太い幹で、しっかり立っていました。



(高田高校の校庭から見る被災風景と「奇跡の一本松」)

### 日本ユネスコ協会が岩手県の久慈市と洋野町をコーディネート。素直で元気な宇治小学校の子どもたち

11月29日～12月1日までは岩手県久慈市と洋野町で。この地域はユネスコ協会がコーディネートしてくださいました。ユネスコ協会は震災直後から遠くて不便な岩手県の地域を頻りに訪れ、行政や教育委員会、地域のネットワークと緊密な連絡をとりながら、様々な形の支援活動をすすめてきました。今回の学校への吹奏楽指導と地域、住民向けコンサートは、久慈のアンバーホールや子育て支援課などが、しっかり準備をしてくださいました。参加者は、フルート/藤田真頼(賛助)、クラリネット/大庭めぐみ(賛助)、トランペット/星野究、森林寛(賛助)、ホルン/原川翔太郎、トロンボーン/伊波睦、チューバ/西口学(賛助)、打楽器/遠藤功のみなさんです。

29日は岩手県久慈市の宇治小学校に来ました。1学年1クラス10人で全校生徒60人。4年生と6年生と一緒に給食を食べました。子どもたちと語り合う楽しいひとときでした。

午後からコンサート。楽器紹介のコーナーでは「おー、へー、すげー」の声が飛び交い、初めて聞く金管合奏の響きに素直に反応してくれます。「なにか質問や感想をいいたい人！」という一斉に手があがります。1年生は全員。いじめなんてないだろうな、と思わせる明るい元気な子どもたちでした。午後は放課後の久慈中学校の吹奏楽部へクリニック。2時間というタイトなスケジュールを楽器指導とアンサンブル指導、最後に金管五重奏の演奏プレゼントと有意義にすごしました。

